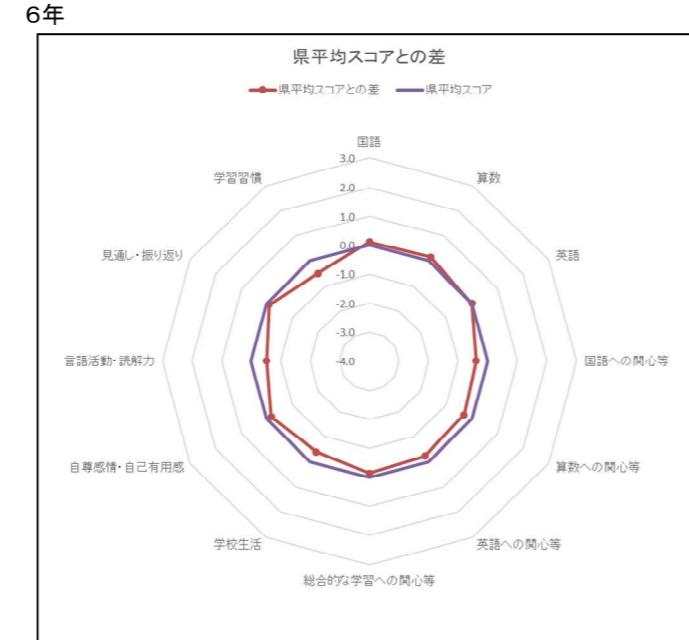
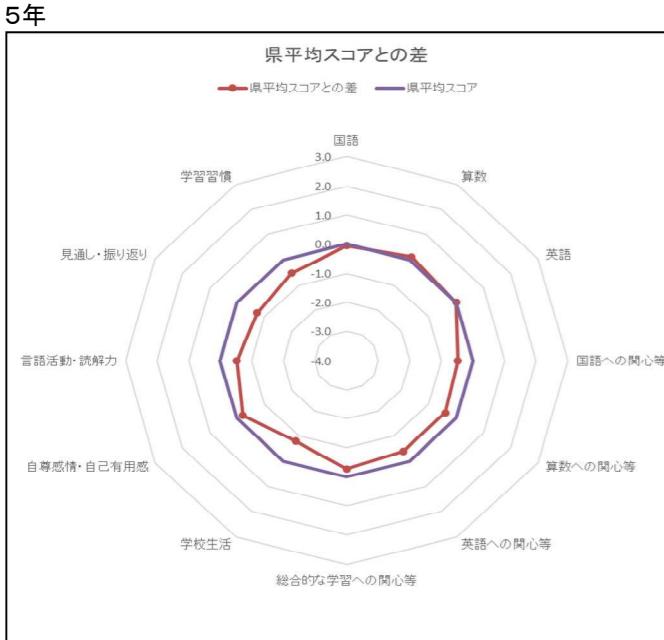


# 令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立内中原小学校)

## (1) 学力調査結果から見られた傾向

		成績と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
5年	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○優れた表現について自分の考えを書けている。</li> <li>○目的に応じた文章が書けている。</li> <li>●4年漢字の正答率が落ちる。</li> <li>●ローマ字のつづりが定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の定着、ローマ字の復習のため、ミニテストの様式、実施時間などを工夫する。</li> <li>・学校図書館活用教育を充実させ、読書への親しみを増すようにする。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合同な三角形や体積を求める問題など、図形の問題はできている。</li> <li>○最小公倍数の問題の正答率が高かった。</li> <li>●小数のかけ算やわり算(整数×小数、小数×小数)の意味をとらえる問題ができていなかった。</li> <li>●異分母の分数の足し算引き算の計算技能(通分)が悪かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学年のまとめ」の学習の充実を図り、既習事項の理解を深める。</li> <li>・授業の中のまとめも大切にし、その時間にわかったことやわからなかったことをノート1ページ程度まとめ。続きを家庭学習でも行う。</li> </ul>
6年	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○だいたいが平均よりちょっと上の結果となった。</li> <li>○読みとる能力が高い。</li> <li>●ローマ字のつづりが定着していない。</li> <li>●下学年で学習した漢字が定着していない。</li> <li>●書く能力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ローマ字への興味付けと反復練習をする。</li> <li>・該当学年だけでなく、全学年の漢字の復習をまとめていく。</li> <li>・卒業文集に合わせて、作文指導を重点的に行う。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概ね県平均より良い結果となった。</li> <li>○量と測定の理解が良い。</li> <li>●記述式の問題がやや弱い。</li> <li>●小数の計算にミスが多い。</li> <li>●計算のきまりを使いきれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを書く活動を意図的に設定する。</li> <li>・小数の加法・減法と乗法・除法の小数点の動き方の違いをおさえて練習する。</li> <li>・習熟のための練習量を増やす。</li> <li>・発展問題へのチャレンジも行う。</li> </ul>

## (2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

	国語	算数
5年生 本校	59	61
5年生 松江市	61	60
5年生 島根県	60	58

受検者数  
5年生 97人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。  
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

## (3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成績と課題(○: 成果、●: 課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語・算数とも、よく分かっている子が多い。</li> <li>○算数で難しい問題にチャレンジする機会が多く、あきらめずに考えようとする子が多い。</li> <li>●国語や算数で自分の考えを伝えたり、話し方を工夫したりしている子が少ない。</li> <li>●国語や算数を好きだと感じている子が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語では、物語文への書き込み、個々の音読を充実させる。算数では、学習プリントなどを活用する。</li> <li>・わからないことを「わからない。」ということができる学びの場をつくる。友達のわからなさに寄り添って学び合える仲間づくりをする。</li> </ul>
	家庭学習に関わる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家で宿題をしている子が多い。</li> <li>●平日にテレビやDVD等の視聴時間が長い。</li> <li>●学校図書館の活用が十分でなく、読書を好む子も少ない。</li> <li>●予習・復習をしている子が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習は一人でできる学習、学校は友達の考え方と自分の考え方を擦り合わせて行う学習(考える力・コミュニケーションの力を高めるもの)をすることを担任と児童で確認し、両輪となるような学習の進め方を心がける。</li> <li>・メディアとのより良い付き合い方などの指導を継続して行う。懇談等で家庭にも呼びかけるなど、家庭との連携を密にする。</li> </ul>
6年	授業改善に関わる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発表の機会がある、話し合い活動が授業でされていると感じている子が90%である。</li> <li>●活用問題への挑戦や他教科のつながりを感じている子が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での話し合い活動を継続して行う。</li> <li>・活用問題などへの積極的なチャレンジを促す授業をする。</li> </ul>
	家庭学習に関わる事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書をしている子が増えた。</li> <li>○家庭学習の時間が増えた。</li> <li>○漢字の書き取りの力は定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習の内容等の紹介を継続して行う。</li> <li>・自学の質の向上を目指す。</li> <li>・読書指導・図書館活用教育の継続をする。</li> </ul>

## (4) 生活・学習に関する意識調査の結果

